

先輩から後輩へと  
受け継がれる  
美しいハーモニー

6年間のうち、中1・中2、高1の3学年で取り組む合唱。その最大の見どころは、学年が上がるごとに磨きがかかっていく歌声の美しさにあります。「高1の先輩方の合唱は、音程の美しさ、声量の大きさ、声の質感、声のそりい方ともレベルが高くてすばしかったです。私たちが2年後、あんなふうに歌えたらいいなと思いました」と口をそろえる中2生たち。中学設立時に同校が目指した「歌声が受け継がれる学校にしたい」という思いは、先輩の歌声を目標に掲げ、練習にも真剣な姿勢で臨む生徒たちによって、着実に実現されているのです。



- 約2300人もの外来者を迎えて開催された「橋祭」。中学生や文化系クラブにとっては、日頃の成果を多くの人に見てもらえる貴重な機会でもある。
- 高2の演劇は、プロの劇団員が指導を担当。9クラスともオリジナリティあふれる脚本で独自の世界を表現し、観客を魅了した。
- 中3の民舞「京炎そでふれ!スペシャルバージョン」。「指先や目線など細部にまでこだわって仕上げました」(中3・Mくん)
- 「橋祭」では、高3と各クラブによる模擬店がずらり!店舗のデザインにも工夫が凝らされており、心から楽しんでいるようすが伝わってくる。
- 教員や保護者がその成長をあらためて実感するという高1の合唱。年々レベルアップしており、今年も多くのクラスが難易度の高い合唱曲に挑戦した。

Topic!

京都発の創作おどり  
『京炎そでふれ!』に挑戦!

中3の民舞では、『京都学生祭典』で誕生した「京炎そでふれ!」に挑みます。手に持った竹の鳴り物の音、京都らしい曲と振りつけ、留袖をリメイクした衣装が特徴で、その躍動感は圧巻です。「中3になると初めて取り組むので、自分たちで振りつけを考える部分もあり練習は大変なようでしたが、本番後の記念撮影では最高の笑顔を見せてくれました!」(杉山先生)



「指導してくださるプロの劇団員や音楽大学生と院生、民舞に取り組む大学生など、外部の方との交流もある恵まれた環境で、本校の理念である『自立・共生』を実践しています」  
(中学校教頭・杉山勉先生)

文化祭での経験と成長は、社会で活躍するうえでの大きな礎となることでしょう。

\ Spirit of Private School /  
私学歳時記

夏休み前から準備に取りかかり臨む9月の『文化祭』は、同校の基本理念である「自立・共生」の精神を養う場の一つ。本番で手にする大きな達成感、そのプロセスにおける試行錯誤と成長の賜物なのです。



来客を迎える玄関の階段アート

人生の糧となる  
力を養う『文化祭』

◆京都橋◆

同校では、4日間にわたり開催される文化祭のなかで、中学では合唱・民舞の発表会を、高校では合唱・演劇のクラス対抗コンクールが開催され、中学の全生徒と高校のコンクールでの優秀クラスは、外来者を迎えて実施される最終日の「橋祭」でもステージに立ち、大勢の観客の前に披露します。

各クラスのレベルアップのための指導を担うのは、各分野に精通したプロや大学生。彼らの貴重な助言を胸に刻み生徒主体で行う日々の練習にも、並々ならぬ熱意を持って臨むのが伝統の光景です。

「中1の文化祭のときと比べて、クラスのみなの。自分の意思を相手に伝える力」が高まったように思います。合唱では互いに助言し合いながら美しいハーモニーを目指し、本番も納得の出来ばえでした!」  
(中2・Hさん)

「リーダーとして考えたのは、いかにまとめるかということ。まずはみんなから本音を聞き出し、その気持ちを踏まえて一人ひとりに私の思いを伝え、全員のやる気アップを図りました。一致団結してやり遂げることができたことを、とてもうれしく思っています」(中3・Mさん)

こうした言葉から、クラスの団結力を強化する過程で、自立性やコミュニケーション力、協調性などが養われていることがわかります。